

第2学年 英語科学習指導案

期 日 令和元年12月5日(木)

場 所 図書館

1. 単元名 Presentation2 「町紹介」 New Horizon English Course 2 (東京書籍)

2. 単元について

- (1) 題材観：週に1回来てもらおう ALT の先生に、自分の住んでいる町を紹介する。町を誰かに紹介することで改めて自分の住んでいる町の良さを知るきっかけになると考えられる。また、図書館を活用して、分かりやすく相手に伝えるために、住んでいる町のイベントや地名の資料を選んで説明する力を身につけさせたい。
- (2) 生徒観：省略
- (3) 指導観：今回、東西南北を使った表現を英語で言えるようになることで、自分の住んでいる町の位置を説明できるようになる。そして、これまでに習った **there is (are)** 「～がある」を使い自分の町にあるものを紹介できる。さらに、その場所がこの町でどういった役割をしているのか調べることによって、自分が住んでいる町をより詳しく知ることができる。そして、それらを英語で伝える姿勢を身につけさせたいと考えた。

3. 単元の目標

外国の人に分かりやすいように、自分の住んでいる町を紹介できる。

4. 単元の評価規準

(ア) 関心・意欲・態度	(イ) 表現	(ウ) 理解	(エ) 知識・理解
聞き手に分かりやすいように発表したり、発表を聞いて積極的に質問したり、意見を述べたりしている。	自分の町について、友達と協力して4文以上の英文を書いて発表することができる。 (S) (W)	先生や友達の発表を聞いて、町の様子について理解することができる。(L)	スピーチの構成に関する知識、接続詞や There is(are) の文、動名詞の形・意味・用法に関する知識を身につけている。

5. 単元の指導計画

時	ねらいと主な学習活動（○ねらい ・学習活動）	評価 基準	評価方法
1	○新出単語・表現を知る。 ・地図を見ながらどこにどんな町があるか理解する。 ・どんな風に紹介されているか、構成を知る。	ウ (L) エ	筆記テスト (後日)
2	○教科書の町紹介を参考に、型を作成できる。 ・自分の町のことを考えながら教科書を参考に英文を作る。 ・今まで使った表現を確認する。	イ (W) エ	筆記テスト (後日)
3	○グループで紹介したい内容を話し合う ・比較対象を見せて羽須美の良さを考える。 ・どんな資料がいるのか話し合う。	ア イ (S) ウ (L)	
4 (本時)	○図書館の資料を使い発表の準備をする。 ・相手に伝えるためにはどのような工夫が必要なのか話し合う。 ・資料の使い方を図書館司書と共に話し合う。	ア	活動の観察
5	○発表の原稿作成、練習する。 ・ALTの先生に伝えるためには、どうしたらわかりやすいか話し合いながら英文を作成する。	ア イ (W) (S)	作った英文を提出 4文以上書けている
6	○ALTの先生に発表をする。	イ (S) ウ (L)	活動の観察

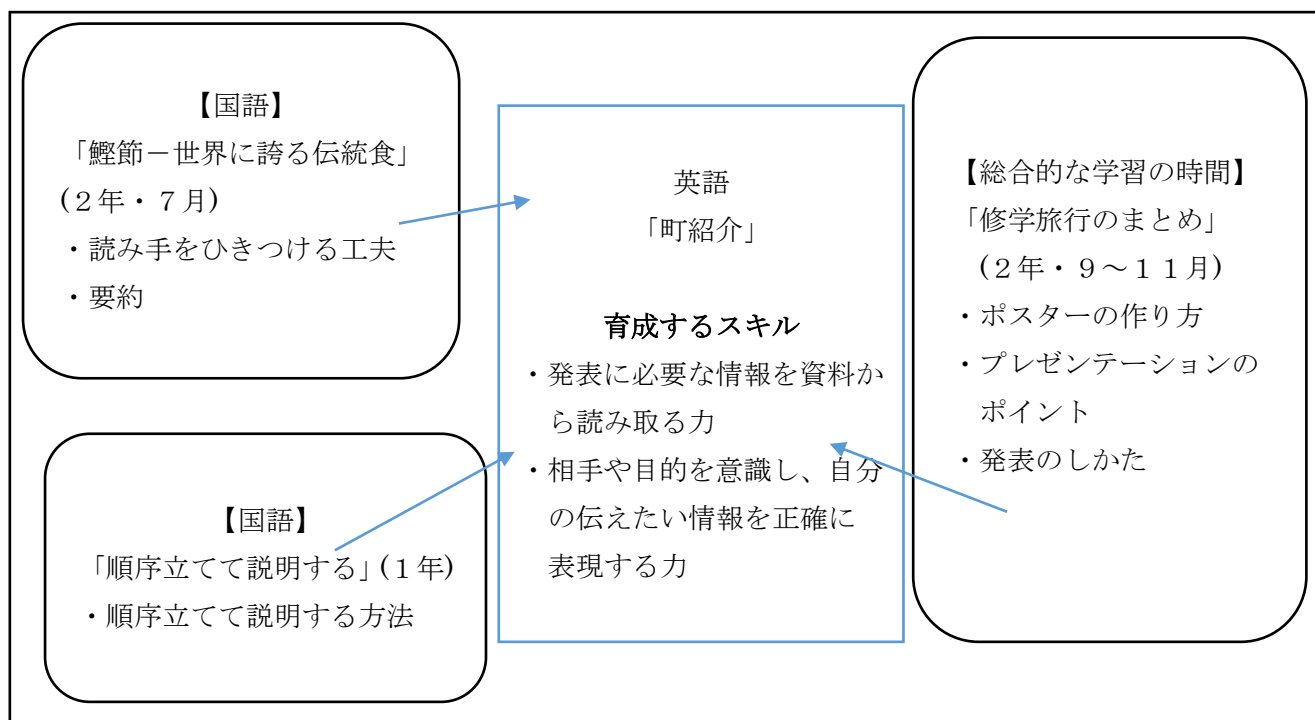
6. 本時の指導過程

学習内容	生徒の活動	教師の支援・指導	評価規準
1 あいさつ (2)	4Qに答えることができ、軽い質問に答えることができる。	質問に答えやすい雰囲気をつくる。	イ (S) ウ (L)
2 Warm-up (5)	BINGOを3分以内で書く。書きながらソングを聞く。 リズムに合わせて発音する。	リズム良くビンゴの単語を言う。	
3 今日の目標 (2)	目標を確認したら評価シートへ記入する。	目標を提示して趣旨を説明する。	ア
4 導入 (6)	前回、どんな町があったかを確認、自分ならどんな紹介資料を作るか構想する。	パワーポイントを使い、前回紹介した町を表示する。	ウ (L)
5 展開 (30)	図書館司書から資料の紹介を受けて各グループに分かれて資料を選定し、構成を考える。 発表の原稿を作成するイメージが具体的にできる。	机間巡視し、出来てない生徒へアドバイスする。	ア
6 まとめ (5)		各グループの取り組みを全体へ紹介	

7. 本時の評価

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
協力してグループ活動やペア活動を行っている。	グループのメンバーと協力して発表に使う資料を選んだり、お互いに教えあったりしている。	グループのメンバーと協力して発表の資料を選んでいる。	資料選びについて戸惑っている生徒には、どうしたらいいか解決への手立てを考え、前向きな支援をする。

8. 単元構成モデル案



9. 研究協議の概要

参加者	校内 9 名、校外 5 名 計 14 名
<p>【よかった点(図書館に関するもの)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習スペースがある。(図書館の環境) ・資料の選定がよかった。小・中学校の学校司書が連携して用意した資料を用いていた。小学校からのふるさと学習につながる内容もあり、小学校から取り寄せた資料も活用していた。 ・学校司書と生徒との関わりがよかった。学校司書も授業に入ることで、資料に関する質問等を受けてもらえ、生徒を待たせることがなかった。 ・最初に教師が発表のモデルを見せていたので、取り組みやすそうに感じた。 <p>【課題・改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の数をしぼってもよかった。(候補がいくつもあったので、紹介テーマを決めるのに時間がかかってしまった) ・何のために伝えるのか、何を分かりやすく伝えるのか、等の目的意識をはっきりさせるとよい。 ・地域に関する資料をもっと幅広くストックしておく必要がある。資料として参考になる可能性のあるものを、どう拾っておくか。どう保存しておくか。 ・図書館を使うことが目的ではなく、英語の力をつけるために図書館を使うということを間違えてはいけない。使う文型を指定するなどして、つけたい英語の力を明確にしておく。 	